

令和3年度とっとり県民カレッジ講座（市町村連携）

主催：鳥取県立生涯学習センター
共催：琴浦町教育委員会

為せば成る、自分ごとのまちづくり

9月4日（土）13:00～14:15に、「とっとり県民カレッジ講座～為せば成る、自分ごとのまちづくり～」を開催しました。講師は、島根県邑南町役場商工観光課長の寺本英仁さん。「ビレッジプライド～地域おこしは年中夢求～」と題して、邑南町の職員として、「A級グルメのまち」という独自のコンセプトを打ち出し、町営のイタリアンレストランの立ち上げや料理人を育成する取組を通して、「食」を通じたまちおこしを実践していることについてご講演いただきました。



リモート講演会の様子

会場：まなびタウンとうはく

参加者の感想

- ★「**地域でお金を循環させることが人口減少高齢化社会では特に大事になってくるはず**」
- ★「**食から地域おこしに取り組んでいく寺本さんのお話から、条件不利地域でも誇りを持ってまちを元気にしていく方法として可能性を感じた**」
- ★「**田舎から都会にビジネス展開をすることを考えがちではあるが、地方に合った方法で手を打っていくことが必要だと感じた**」
- ★「**公務員が営業するという新しい視点と地産地消を進めていく上でのヒントがあった**」などの意見があった。

講演会を視聴いただいた方の中で、Google フォームの質問用紙を介して、下記の質問や意見を受け付けました。
これらの質問について、講師の寺本さんに回答をいただきましたので紹介します。
ぜひ読んでいただき、内容についてさらに理解を深めていただければと思います。

- Q1. 邑南町にぜひ行ってみたいと思いました。石見和牛を食べてみたいです。
これから、日本の田舎や離島がどんどん注目される時代になると思いますが、他の田舎との差別化という点はどうしたらいいと思われますか。
他の田舎ではなく邑南町を選んでもらうための秘策があれば教えていただきたいです。鳥取県を選んでもらうための秘策にも通じると思い質問させていただきます。
- A1. 地域の魅力は最終的には、そこに住んでいる『人』ではないかと考えます。
そこに住んでいる人が楽しく、幸せであれば地域は魅力化され、差別化されると思います。
最終的には、自分自身がその土地で、何を目的に生きていくかが定まることが大切です。
- Q2. 素晴らしいご講演、本当にありがとうございました。失敗してもあきらめない原動力の源はなんですか？
- A2. 失敗はヒントであり、次の課題です。これをクリアした時の喜びが成長だと考えます。
しかし、必ず何かをやれば、失敗はあります。それをポジティブにヒントと受け止めクリアしていくと、一直線ではありませんが、階段をのぼるように成果が出てくるのではないのでしょうか。
- Q3. 地産地消の部分ですが、自治体単位で社会減で人口が減ってしまう中、一定の外貨獲得は必要になると考えられます。地産地消と外貨獲得のバランスについて、思われていることがあれば教えてください。
- A3. 地元の人が食べない特産品、飲食店は、一時的にブームになって都会で売れても長続きしないと考えます。
まず、地元で食べてもらい、愛されることが最重要課題だと思います。
そうすれば、地元の方が応援団になり、外の人に知られ、自然と外貨獲得ができてくると思います。
- Q4. 地域おこし協力隊ですが、自治体にもよりますが、自治体の給料はどうしても低くなってしまうと思われませんが、収入面について副業を許可しているなど工夫をされていることはありますか。
- A4. 邑南町の地域おこし協力隊は平成 23 年度から始まりました。
当時から、起業を最終目標としており、そのためには、副業は必要ということで、協力隊以外の活動も認めています。
そのため、起業の件数は増えています。